

2023年3月31日  
 株式会社 竹中工務店

## 三井住友信託銀行とポジティブ・インパクト・ファイナンスの融資契約を締結

竹中工務店（社長：佐々木正人）は、三井住友信託銀行（社長：大山一也）と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（資金用途を限定しない事業会社向け投融資タイプ）」の融資契約を締結しました。

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」とは、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）（※1）が策定したポジティブ・インパクト金融原則（※2）に基づき、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資です。

本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に対しインパクトを与える活動として、当社の重要課題（マテリアリティ）から後述のテーマを選定し、今後毎年、三井住友信託銀行から目標の達成状況を評価いただきます。

なお本件は、株式会社日本格付研究所から、評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について、第三者意見（※3）を取得しています。

当社は、企業活動を通じて取り組むべき課題を2020年に重要課題として抽出しました。2023年より、その重要課題に対して、国際的なガイドラインや企業環境の動向も踏まえ、見直しを行いました。また、当社が培ってきた伝統や企業文化の特色にも着目しながら、社会課題の解決と自社グループの持続的な成長を目指し、特に当社グループならではの5つのテーマについて重要課題を設定しています。

竹中工務店グループは今後も引き続き、SDGsの達成とサステナブル社会の実現に貢献していきます。

### ■SDGs達成にインパクトを与えると評価された当社の主な活動

テーマ	内容	目標と指標（KPI）	SDGs
持続可能な建築・まちづくり	感性を刺激する建築・まちづくりとサービス展開による文化醸成	<p><b>(a) 「日本の建築産業における最高峰」を目指す</b></p> <p><b>目標</b>                      主要外部表彰の累計受賞数において総合建設業界 No.1 を維持する</p> <p><b>指標（KPI）</b>                      主要外部表彰累計件数                      ア. BCS 賞                      イ. BELCA 賞                      ウ. 日本建築学会賞</p>	 

		<p><b>(b) 「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指す</b></p> <p><b>目標</b>          社会システム実証等活動数（累計件数）を、2025年までに12件とする</p> <p><b>指標（KPI）</b>          社会システム実証等活動数</p>	
<p>環境との調和</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクルCO<sub>2</sub>ゼロ建築への挑戦</li> <li>・自然と共生する建築・まちづくり</li> <li>・資源を循環させる建築・まちづくり</li> </ul>	<p><b>(a) 脱炭素社会の実現</b></p> <p><b>目標</b>          ア. グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量について、Scope 1, 2 排出量を2030年までに46.2%削減、2050年までに100%削減する（基準年：2019年）          イ. グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量について、Scope 3 排出量を2030年までに27.5%削減、2050年までに100%削減する（基準年：2019年）</p> <p><b>指標（KPI）</b>          ア. CO<sub>2</sub>排出量（Scope 1・2）          イ. CO<sub>2</sub>排出量（Scope 3）</p> <p><b>(b) 生物多様性への配慮</b></p> <p><b>目標</b>          生物多様性向上プロジェクトを各年12件実施する</p> <p><b>指標（KPI）</b>          生物多様性向上プロジェクト数</p> <p><b>(c) 資源循環と廃棄物削減</b></p> <p><b>目標</b>          新築工事の建築副産物リサイクル率（容積比）を2050年に100%とする</p> <p><b>指標（KPI）</b>          新築工事の建築副産物リサイクル率</p>	
<p>働き方・生産性改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能で生産性の高い建築プロセスの追求</li> <li>・労働時間等の適切な労働条件の担保（従業員）</li> <li>・多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現</li> <li>・人材の確保と育成・定着</li> </ul>	<p><b>(a) 持続可能で生産性の高い建築プロセスの追求による、労働時間等の適切な労働条件の担保</b></p> <p><b>目標</b>          ア. 施工高管理効率を2025年までに2021年比9%向上させる          イ. 施工高効率を2025年までに2021年比5%向上させる          ウ. 作業所閉所（4週8閉所）実施率を2024年に100%とする</p> <p><b>指標（KPI）</b></p>	

		<p>ア. 施工高管理効率 イ. 施工高効率 ウ. 4週8閉所実施率</p> <p><b>(b) 多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現を通じた、人材の確保と育成・定着（従業員）</b></p> <p><b>目標</b> ア. 男性の育児休業取得率を各年 100%とする イ. 女性管理職比率を 2025 年に 8%以上とする</p> <p><b>指標（KPI）</b> ア. 男性の育児休暇取得率 イ. 女性管理職比率</p>	
<p>着実な生産プロセス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質で安全な建築の提供</li> <li>・公衆災害や労働災害のない作業所の実現</li> <li>・持続可能なサプライチェーンの実現</li> </ul>	<p><b>(a) 高品質で安全な建築の提供</b></p> <p><b>目標</b> ア. 重大な品質問題を発生させない（各年） イ. 建築主に対するお客様満足度調査（竣工時・竣工後2年経過時）において「どちらかと言えば満足」以上の割合を 100%とする（各年）</p> <p><b>指標（KPI）</b> ア. 重大な品質問題発生件数 イ. お客様満足度調査（竣工時・竣工後2年経過時）の「どちらかと言えば満足」以上の回答割合</p> <p><b>(b) 公衆災害や労働災害のない作業所の実現</b></p> <p><b>目標</b> 重大な公衆災害・労働災害を発生させない（各年）</p> <p><b>指標（KPI）</b> 重大な公衆災害・労働災害発生件数</p> <p><b>(c) 持続可能なサプライチェーンの実現</b></p> <p><b>目標</b> 主要取引先による取引先活動ガイドライン遵守率を 100%とする（各年）</p> <p><b>指標（KPI）</b> 主要取引先による取引先活動ガイドライン遵守率</p>	 
<p>人権の尊重</p>	<p>人権の尊重</p>	<p><b>目標</b> 1回/年の有識者による検証と検証の指摘を踏まえた取り組みの改善</p>	

		<b>指標 (KPI)</b> 人権デューデリジェンスの継続的な実施状況	
--	--	---	---

(※1) 国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI)

国連環境計画 (UNEP) は、1972 年に「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG (環境・社会・企業統治) への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

(※2) ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FI が 2017 年 1 月に策定した、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた金融の枠組。企業が SDGs 達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くもの。

融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

(※3) ポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性についての第三者意見  
 株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>